

郷土摂津 いにしえ通信

第36号 平成13年4月1日

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部生涯学習課

〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

TEL (06) 6383-1111 TEL (0726) 38-0007

第1回

4月 山行き

わがまち ちょっと昔の生活

民間信仰は、原始信仰以来の長い歴史的系譜をもち、その間、仏教をはじめとする外来信仰との接触・受容・習合等を経過してきたため、ひじょうに多くの神々が存在します。

そのなかで、自然崇拜・精霊崇拜など原始信仰の流れをくむ信仰、農耕生活を基盤とする信仰、先祖の霊を崇拜する信仰との3種が、民間信仰の中核をなしているといえます。

自然そのものを崇拜したり、自然物や自然現象に霊的存在を認める信仰は、数多くの神々をつくりだしてきました。田の神・山の神・水の神・風の神・・・・・・・・。

4月18日は「山行き」といって、午後から弁当や酒を持って山へ出かけました。民俗学によると、「山入り」「花見」などとも呼ばれ、全国的に行われました。もともとは田仕事を始める前に予祝として、田の神（田仕事を始めるまでは、山におられる）と食事を共にする行事だったと言われています。だから、全国的には日はさまざまであり、また、山のない所は池や川などへ行きました。

体験談



似禅寺山
じぜんじやま

吹田市山田
から千里丘
方面を望む。



同じ場所の
現在の様子

◎学校の授業は2時間くらいで、弁当をもって似禅寺山へ行き、みんなと遊んだ楽しいことを覚えています。（市場）

◎山行きの時、子どもたちの村対抗のケンカがよく起こりました。石を投げ合ったりして。でも理由はよく分からないのです。（太中）

◎今でも4月18日は山行きをします。でもバスに乗ってホテルへ行く山行きです。（味舌）



講座や展示のご案内、活動報告など多彩な文化財情報を毎月お知らせします。また、このページでは皆様の投稿を募集しています。

文化財講座を開催しました。

ふるさと摂津講座 味舌の歴史散策

3月8日(木)に平成12年度ふるさと摂津講座の最後として味舌地区の歴史散策を開催しました。当日はあいにくの寒空でしたが、29名のご参加をいただきました。コースは市役所→相撲墓→木下勘兵衛の碑→味舌天満宮→井関敬順師の碑(慶徳寺内)→子安地藏→弥栄の楠→金剛院で解散でした。



金剛院では、説明とおもてなしを受けました。

摂津市文化財講座

「夢馳せる戦国の世の強者どもの城」

3月15日(木)に安威川公民館で、講師に古城友の会会長尾原隆男氏をお招きして文化財講座を開催しました。摂津市には、三宅城・黒丸城・一津屋の砦など戦国時代の城があったと言われています。意外と身近な戦国時代の城のお話に参加された65名の方は熱心に聞いておられました。



摂津市文化財講座風景

泉州岸和田いにしえの旅

3月22日(木)絶好の春の日和、バスによる歴史ツアーが開催されました。主催は摂津市文化財愛護会で44名が参加されました。当日は古城友の会の方からお城について、地元の郷土史研究家の方からはだんじりや紀州街道についての説明を受けました。また、当日の昼食は五風荘の風情漂う閑静な庭園を眺めながらいただきました。

- | | | | | | | | |
|-------|----------|-------|----------|-----------|--------|--------|-------------|
| ⑦ 天性寺 | ⑥ 一里塚弁財天 | ⑤ 光明寺 | ④ だんじり会館 | ③ 五風荘(昼食) | ② 岸城神社 | ① 岸和田城 | 摂津市民文化ホール集合 |
|-------|----------|-------|----------|-----------|--------|--------|-------------|

泉州岸和田いにしえの旅コース



郷土史コーナー

意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

鳥飼（養）の歴史

村営住宅の建設

第2次世界大戦が昭和20年（1945年）8月15日に終戦になり、翌昭和21年に入ると占領軍は9港を引揚港に指定し、リバティ型輸送船、LST など200隻を日本に貸与し、引き揚げは大幅に進みました。そのころの新聞には復員の知らせが毎日掲載されました。

当事、鳥飼西の鐘淵化学大阪工場には引揚者が多数おられ、住宅に困っていました。昭和27年、鳥飼村において、村営住宅建設の計画がたてられました。村営住宅建設は三島郡で最初のことであり、府下でも珍しいことでした。初年度には20戸を、鳥飼八町と鳥飼西に10戸ずつ建設することになりました。鳥飼西の村営住宅の敷地は鐘淵化学が提供しました。鳥飼西住宅のことを子字名にちなんで町田住宅と呼ばれていました。

建設費は一戸当たり303,491円。そのうち146,461円が国庫補助、87,030円が村財政で賄われ、残る70,000円は起債および借入金によってでした。いずれも第一種木造家屋で、平均床面積34.7㎡に過ぎませんが、敷地面積は、鳥飼八町が227.7㎡、鳥飼西は166㎡で、家賃はいずれも1,000円でした。

住宅建設とともに、鳥飼村営住宅管理条例が制定されました。それによると、入居者は村内に職場を有し、村内に居住する者の中から選ぶことになっていました。入居申込者数は、77名にのぼり、約3.9倍の競争率となりました。

翌28年には第二期工事が行われ、鳥飼八町と鳥飼西にそれぞれ10戸ずつ、前年度と同じ規模の村営住宅が建設され、鳥飼村の村営住宅建設計画は完成をみました。

鳥飼西村営住宅は、昭和44年に民間に払い下げられたため消滅しました。

「摂津市史より」 担当 〔茗荷〕



鳥飼八町村営住宅



鳥飼村役場(昭和20年代)

第1回

埋もれた
摂津市の歴史

発掘調査で明らかになる摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介します。

はじめに

現在、全国では平成8年の11,738件をピークに平成9年には6,941件、平成10年には6,897件にも及ぶ工事に伴う事前発掘調査が実施されています。これらの発掘調査から日々、日本や地域の歴史を塗り替えるような発見が相次いでいるといっても過言ではありません。埋蔵文化財は地下に埋もれた形で発見されますので、発掘調査によって初めてその全貌を知ることができます。その発掘調査からは過去の人類の自然への働きかけがどのようなものであったかが分かります。原始・古代から現代まで連綿と継続している生活の営みを教えてくれるのです。その意味では、現代が人類の歴史的過程の中で最も開発行為が盛んで、これまでのどんな時代よりも大規模に大地と関わりをもっているとも言えます。

そうしたとき、私たちの歴史や過去の生活を知る重要な材料であり、共有の財産であるはずの遺跡が、私たちの自然への関わりの中で数多く失われていくという構図が現実の社会問題として各地で生じています。

摂津市でもこれら重要な埋蔵文化財の保護と開発の円滑化のため、各種調査（確認調査・試掘調査・工事立会等）を実施しているところです。平成13年4月現在、これらの調査から10の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が周知され、埋もれてしまった摂津市の歴史が少しずつ明らかになりつつあります。

次号より、平成9年から市内で実施されましたこれらの調査の成果について紹介していきます。 担当 （伊部）

市内の遺跡

遺跡名	種類	時代	所在
蜂前寺跡	寺院跡・集落跡	古墳後～近世	千里丘3丁目
明和池遺跡	集落跡	古墳後～近世	庄屋1丁目他
和道遺跡	採集地		鳥飼和道
淀川河床遺跡	採集地		鳥飼上
柱本南遺跡	採集地		鳥飼上
千里丘東遺跡	集落跡	中世	千里丘東4丁目
千里丘7丁目遺跡	生産遺跡（畠跡）	中世	千里丘7丁目
正雀1丁目遺跡	遺物散布地	平安	正雀1丁目
千里丘東2丁目遺跡	生産遺跡（水田）	奈良・平安	千里丘東2丁目
東正雀遺跡	遺物散布地	中世	東正雀

©平成13年3月現在、「大阪府文化財地名表」「大阪府文化財分布図」より